

トピックス…②

地域交流牧場全国連絡会

設立10周年記念式典を盛大に開催

地域交流牧場全国連絡会は5月21日、東京・一ツ橋の如水会館で、設立10周年記念式典を盛大に開催し、会員の酪農家ら130人が出席した。

● 設立10年で会員数は2倍以上 酪農家が自由に情報交換できる場に

地域交流牧場全国連絡会は、酪農家が減少する中で今後の経営継続のために、酪農に対する消費者の理解醸成活動やファームイン、ファームレストランの導入など経営の複合化を各地で個々に模索していた酪農家有志が集まり、平成10年に「交流牧場推進生産者会議」を設立したのがきっかけ。平成10年から酪農教育ファーム活動を推進していた中央酪農会議に事務局を置き、平成11年7月1日に全国連絡会が設立された。全国連絡会は現在、各地で消費者交流活動を行っている酪農家が自由に意見や情報交換をする全国組織として大きな役割を担っている。

式典で主催者あいさつした廣瀬文彦会長（当時。北海道リパティヒル廣瀬牧場）は、「設立当初は129戸だった会員酪農家が296戸まで増えた。会員の数だけ酪農への思い入れや歴史がある。その多様性を財産と考え、新たな酪農の可能性を広げていきたい」と今後の抱負を述べた。



続いて、「酪農と歩んだ私の歴史」をテーマに、会員の岡田秀子さん（北海道岡田牧場）、佐久間純一さん（宮城県南蔵王不忘高原牧場）、鳩野トミ子さん（鹿児島県鳩野牧場）の3人が、酪農や自然への思いを発表した。

また、功労者として、全国連絡会初代会長の横尾文三さん、中央酪農会議元副会長の西原高一氏をそれぞれ表彰した。

● 「つなごう牛・人・未来」 今後10年の行動ビジョンを宣言

来賓には農水省の大杉武博牛乳製品課長（当時）、農畜産業振興機構の野村俊夫酪農乳業部長、中央酪農会議の門谷廣茂専務が出席した。

大杉課長は「国民生活に重要な役割を果たす酪農だが、取り巻く状況は厳しい。今一番重要なことは、値上げした乳価を維持、安定化させることだ。農水省は牛乳消費の維持拡大のための環境作りが肝要と考えている。経済後退の中、至難の取り組みであるが、ここが頑張りどころだ」と述べた。

また、野村部長は「若い人が農業に目を向け始めている。今後も都会と酪農をつなぐ架け橋として、その魅力を訴えていくことを願っている」、門谷専務は「連絡会会員の皆さんには、地域住民の安らぎの場としての交流など、社会に対する重要性はますます増してくだろう」と今後の活動に期待を込めてあいさつした。

式典では、実家が福岡県で酪農を営み、北京五輪に出場したレスリング選手の池松和彦選手の記念講演を行い、最後に藤田毅副会長（当時）が今後10年の行動ビジョン「つなごう牛・人・未来～もっと知ってほしい私たち牧場のこと～」を宣言し、閉会した。



記念講演する池松和彦選手